

この一冊でクルマ遊びがもっと楽しくなる!!

G-works G-ワークス

旧車

ROUTE G-WORKS

ルート・G-ワークス



Car Gravure

箱スカGTR KPGC10



■ストリート対決 最高速・ゼロヨン・燃費・パワー各テスト / 幻のOS 技研 TC24 完全組み立て & パワーチェック / 日本の名車 24 台 / 240 クロスインプレッション / 強心臓を得た旧車ボディを作る / 6 スロットルのトヨタ 5M と 1G / 日本全国みんなのツーリング / サーキット & ドラッグレースカー / 日産 A 型エンジンをばらす etc

Vol. 1

我が国が誇る、昭和の名車たち

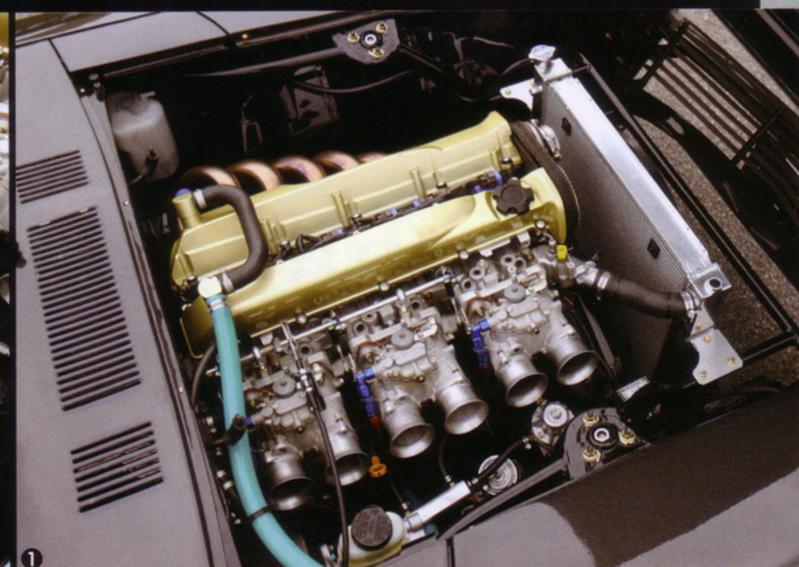
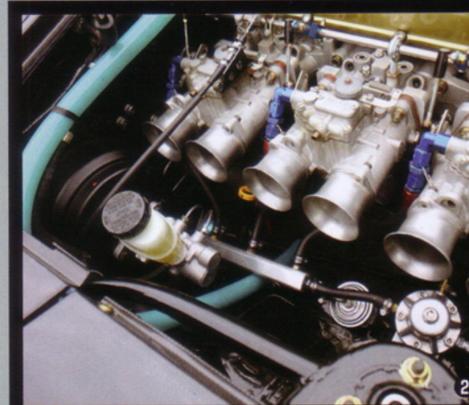
エンジンスワップの旧車

RB搭載で走りを極める

S30+RB30

数あるチューニングの中でも、特別な響きを持つエンジンスワップ。その車両にそのエンジンを搭載したら一体どうなるのか。そんな魔力を秘めたロッキーオート製作のZを紹介する

エンジン



①RB系で最も排気量の大きい輸出用RB30。排気量は大きいものの、ヘッドはシングルカム2バルブなので、270度カムを組んだRB26のツインカムヘッドを組み合わせて搭載。ミッションは、OS技研製3速クロスが組まれた71C。駆動系はクスコのLSDと等速ジョイントにて強化済みだ②点火はコンピューターで制御しているが、燃料供給はソレックス50φキャブレターにて行うため、加速と共にキャブの吸気音も楽しめる③タコ足はオリジナルの48φ等長の6-1レイアウト。繋がる排気音は格別だ



走る・曲がる・止まるを追求した走り

ロッキーオート：メカニック 向田さん
エンジンからのメカニカルノイズが無く、現代の車のように始動し、驚くほど普通に走り出す。回転の上昇と共にソレックスの吸気音が聞こえ始め、マフラーからはL型ともRB26とも違う独特の排気サウンドが響く。早めのシフトアップでもトルクがあるため、低い回転でスムーズに走れ、回せば軽い車体とエンジンパワーの相乗効果で、猛烈な加速が味わえる。サーキットを意識したボディと足回りのお陰で、アクセルやブレーキ、ステアリングの僅かな操作をダイレクトに感じられる。快適装備は一切無いが、走り好きな大人にとっては、とても贅沢な仕上がりが



オリジナルの車高調を組み、ARC製のバイスタビライザーを装着。同時に各ブッシュを強化品にすることで、ステアリングのシャープな応答性を実現。ロアアームとデフメンバーは、オリジナルのアルミビレット製だ



ステージア用の68ℓ燃料タンクに交換して、現代のインク式燃料ポンプを装着。ボアの首やガソリン臭が室内から、樹脂製なのでサビとも無。フェルリッドにはネジキャップが付く

足まわり

レイズTE37Vはフロント9J-15、リヤ10J-25。組み合わせるタイヤは、フロント205/50-15、リヤ225/50のトランピオR881。ブレーフロントがタイプM+スリッター、リヤS14で強化済み

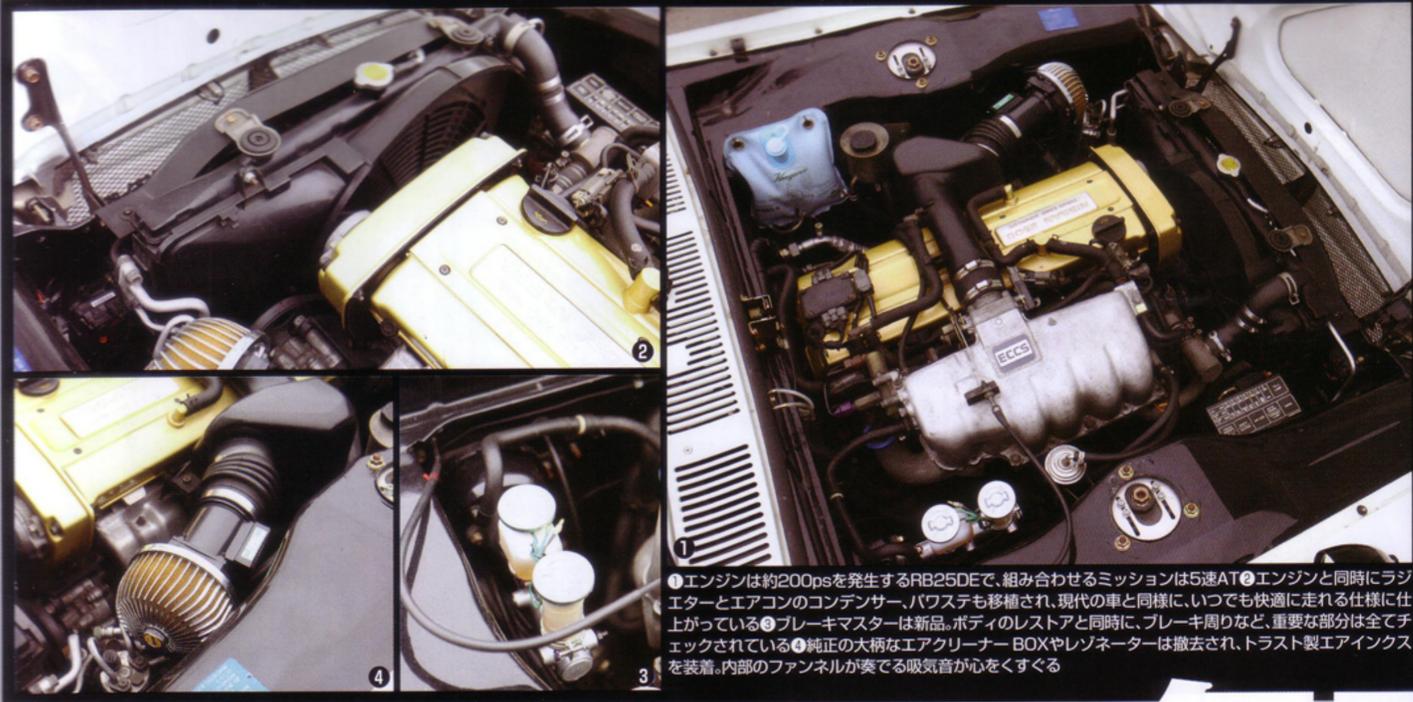


漆黒のボディの正体は、全身カーボン。前後バンパー、フロントスポイラー、フロントフェンダー、ライトベゼル、ボンネット、オーバーフェンダー、リアゲート、ガーニッシュ、リヤゲート、リヤフェンダーに続く面は、ボディにカーボン繊維を貼り込むことで、他のZとは全く異なる威圧感を放つ。車体の完成度は現状で8割。これから細部を煮詰め、走りに磨きを掛けていく予定だ

全身カーボンマテリアル



エンジン



①エンジンは約200psを発生するRB25DEで、組み合わせるミッションは5速AT②エンジンと同時にラジエーターとエアコンのコンデンサー、パワステも移植され、現代の車と同様に、いつでも快適に走れる仕様に仕上がっている③ブレーキマスターは新品。ボディのレストアと同時に、ブレーキ周りなど、重要な部分は全てチェックされている④純正の大柄なエアクリナー・BOXやレゾネーターは撤去され、トラスト製エアインクスを装着。内部のファンネルが奏でる吸気音が心をくすぐる



ロッキーオート：渡辺社長

静かで快適なハコスカを楽しむ
 極端なパワーアップや足回りの大幅変更はせず、あくまでハコスカの味を大事に残した上で現行車の常識とも言える装備に仕上げています。一番のポイントはミッションがAT化されている部分で、気むずかしさなど無く普通にスルスルと走る。ラック&ピニオン化のお陰でハンドリングの不安感が消えているのも大きく、スピードを上げてもピタリと安定している。何気なくパワーウィンドウを開けると、運転席はオートで全開全閉。現代の車では当たり前のも、ハコスカでは非常に新鮮な瞬間だ。キャブの調整やエンジンの振動に旧車の良さを求める人には物足りないかもしれないが、普段の足としていつでも乗りたい人には快適すぎるほどの1台と言えるだろう

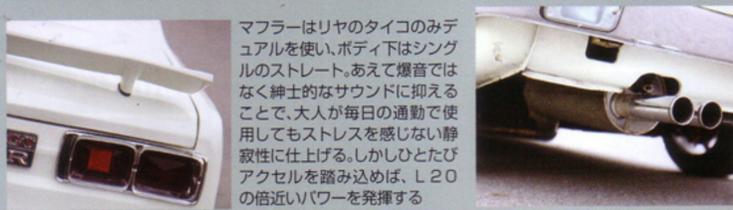
取材協力：ロッキーオート
 TEL:0564-58-7080



室内



①純正ラジオの位置に1DINオーディオを埋め込む。オーディオの下に埋め込んであるのはETCで、その下の純正の吹き出し口からエアコンの涼風が吹き出す②センターコンソール下部にオートエアコンのコントロール部があり、その後ろにパワーウィンドウスイッチ、ATセレクトと続く③セレクトのさらに後ろには、ハザードとAT制御のスイッチが付く④ステアリングはイタルボランテのウッド。パワステ装着と共にラック&ピニオン化されている⑤シートは前後席共にオリジナル。フル乗車でのドライブも楽々だ

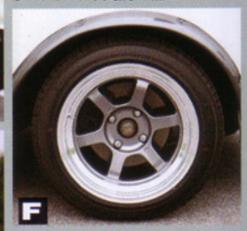


マフラーはリヤのタイコのみデュアルを使い、ボディ下はシングルストレート。あえて爆音ではなく紳士的なサウンドに抑えることで、大人が毎日の通勤で使用してもストレスを感じない静寂性に仕上げる。しかしひとたびアクセルを踏み込めば、L20の倍近いパワーを発揮する



足まわり

TE37Vはフロント8J±0、リヤ9.5J-20。タイヤはフロントがDNA ECOSで195/50-15、リヤがZEX ZE-326で225/50-15。ブレーキはフロントをC33ローレルのキャリパー&ローター移植で大径化し、リヤはアルフィンドラム化することで強化。足回りはオリジナルの車高調を組む



毎日乗れる快適ハコスカ

KG10+RB25

旧車のスタイルは好きだけど、キャブの調整は大変そう。エアコンやパワステ、オートマ付きなら、毎日乗り回したい。そんな不可能とも思える希望を叶えた一台が、このハコスカだ



ベースはハコスカのGT。チンスボ、板ハネ、黒ミラー、テールピース、同色窓フチに赤バッジ、デュアルマフラーと、ボディ外装は後期GT-R仕様仕上げられている。当然リヤフェンダーはRカットされ、GT-Rの証とも言えるオーバーフェンダーを装着。当時から走りの定番だったフロントオーバーフェンダーを追加し、最新ホイールのボルクレーシングTE37Vをツライチで履くことで、スバルタンな雰囲気グッと増している

GT-R仕様の外観に仕上げる

